

一人生き残った孫に両親の死を伝えた

砂川、飲酒・・・5人死傷事故から1年

2016年6月8日(水)7時30分

遺族がコメント発表

砂川市の国道で飲酒運転とされる乗用車が軽ワゴン車に衝突し、歌志内市の会社員の男性＝当時（44）＝ら一家5人が死傷した事故から6日で1年が過ぎ、男性の父親（73）が7日、コメントを発表し、「切なく悲しい気持ちがますます強くなっていく」と無念の心境を明らかにした。

事故で一時重体となったものの、一家で唯一生き残った、男性の次女（13）には、4月に家族4人の死を知らせたという。

事故のことは口にせず

コメントは、札幌の弁護士を通じて発表した。男性の次女は現在、札幌市内の病院の交通事故専門病棟で治療とリハビリを続けている。

男性の父親によると、次女に家族の死を告げた際、大きな動揺は見せず、じっと聞き入っていたという。

5月6日の月命日に男性の父親の自宅で、4人の遺影と遺骨と対面した際は、涙一つ見せずにじっとたたずみ、何かを訴えている様子だったという。

次女は後日、「パパもママもお姉ちゃん、お兄ちゃんも私（次女）のことを見守っていてください、とお願いしたの」と話した。

事故前の記憶は相当回複している様子だが、事故のことを口にすることは無いという。